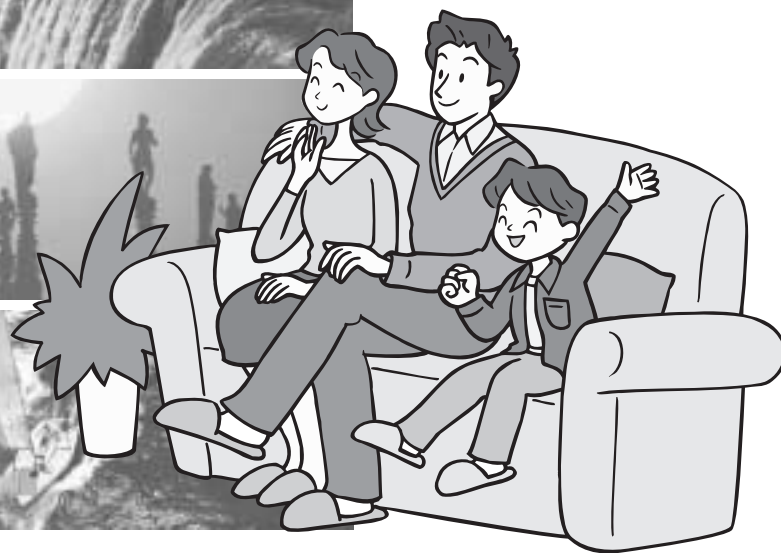
Panasonic

取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

品番　SC-HT08

このたびは、ホームシアターオーディオシステムをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

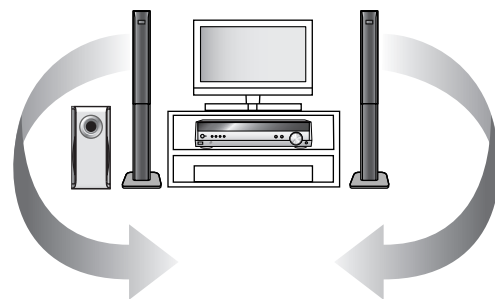
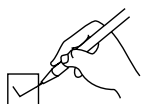
保証書別添付

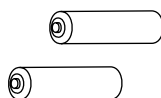
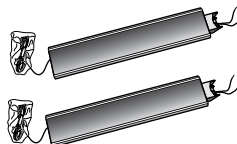
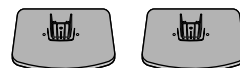
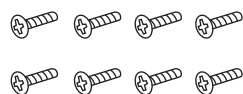
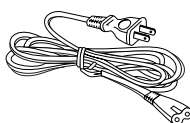
- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
  特に「安全上のご注意」（➜ 24 ～ 25 ）はご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
  お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

上手に使って上手に節電

RQT8564-1S

省スペースで迫力あるサウンドを楽しめる ホームシアターシステム

- 本機は、ドルビーバーチャルスピーカー回路を搭載しています。フロントスピーカーとサブウーハーだけで、5.1 ch サラウンドに迫る音響効果を発揮しますので、限られた空間でもホームシアターを楽しむことができます。
- 本機はドルビーヘッドホン機能を搭載しています。ヘッドホンでも迫力あるサウンドを楽しむことができます。

付属品の確認

組み立て、接続の前に付属品を確認してください。

- □ リモコン★（1 コ）【EUR7662Y60】
- □ リモコン用乾電池☆（単 3 形：2 コ）
- □ スタンド用パイプ★（2 本）【RYPV0172-S】
- □ スタンド用ベース★（2 コ）【RYPV0178-S】
- □ スタンド用ネジ★（8 コ）【XSN5+12FN】
- □ 電源コード★（1 本）【RJA0012-K】

お願い

- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【　】内は買い替え時の品番です。
- 付属品の品番は、2005年12月現在のものです。品番は変更されることがあります。
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。
また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

付属品は販売店でお買い求めいただけます。
★印は松下グループのショッピングサイト
「パナセンス」でもお買い求めいただけます。
（☆印は「パナセンス」では取り扱っていません）

Pana Sense

http://www.sense.panasonic.co.jp/

もくじ

本書内の表現について　参照していただくページまたは場所を（➔ ○○）で示しています。（○○は数字または場所）

まず ご使用の前に

ホームシアターの準備

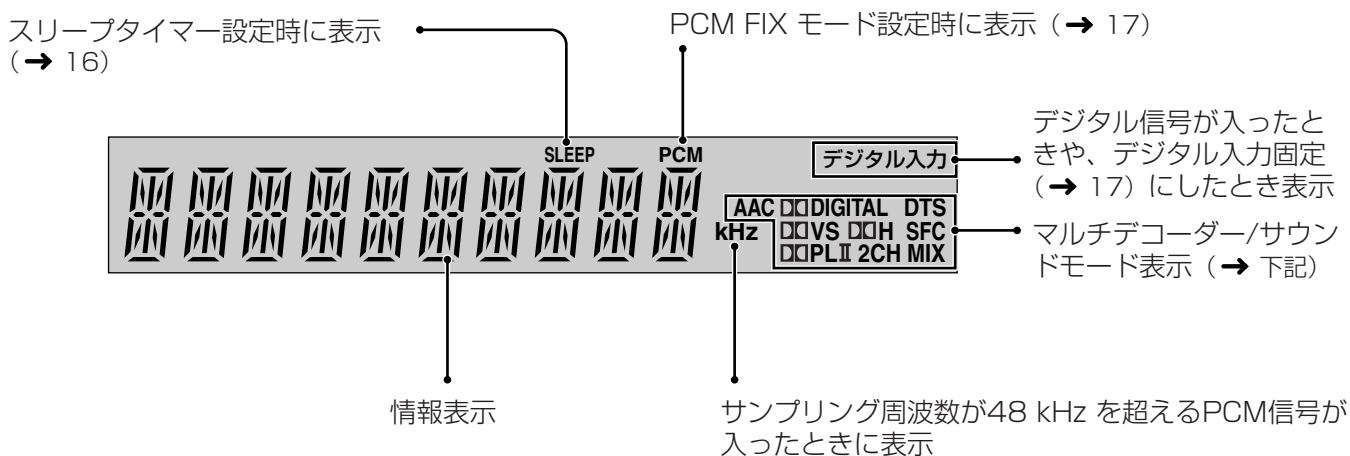
さあ 使ってみよう！

もし 必要なとき

各部のはたらき

本体

表示部

●DIMMER（ディマー）（➜ 16 、「表示部を暗くする」）を使って明るさを変えることができます。

マルチデコーダー/サウンドモード表示について

入ってきたデジタル信号の種類や使用中のサウンドモードを表示します。

AAC	：AAC ソース（BS デジタル放送など）を再生しているとき
DD DIGITAL	：ドルビーデジタルソースを再生しているとき
DTS	：DTS ソースを再生しているとき
DD VS	：ドルビーバーチャルスピーカーが働いているとき
DD H	：ドルビーヘッドホンが働いているとき
SFC	：SFCが働いているとき
DD PL II	：ドルビープロロジックIIデコーダーが働いているとき
2CH MIX	：2CH MIX モードが働いているとき

リモコン

他のAV 機器の電源を「入/切」する
（➜ 20、21 ）

本機の電源を「入/切」する
（➜ 14）

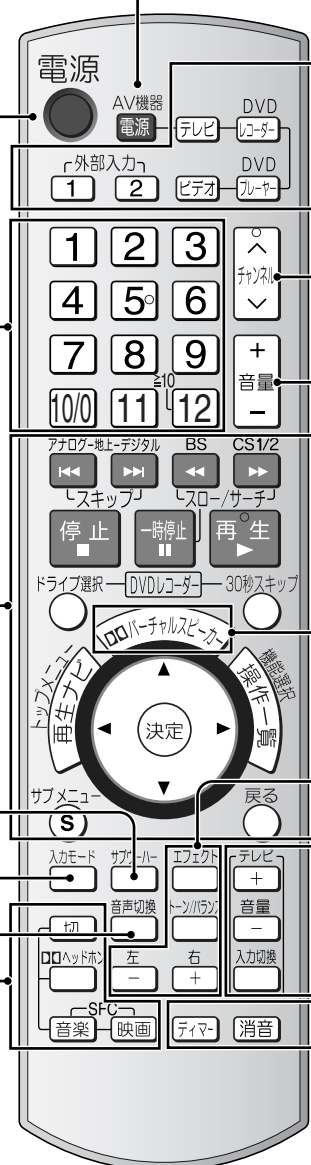
テレビ、ビデオのチャンネル選択/
DVDプレーヤー、レコーダーのト
ラックやチャプターを選ぶ
（➜ 20、21 ）

他の機器の操作（➜ 20、21 ）

サブウーハーレベルの調整（ ➜ 17）

入力信号の判別方法を選ぶ（ ➜ 17）

AAC の二重音声を切り換え（ ➜ 17）

SFCモード、ドルビーヘッドホン
モードを選択する、「入/切」する
（➜ 15、19）

入力ソース（音源）、リモコン操作
モードの切り換え
（➜ 14、20、21）

テレビ、ビデオのチャンネル選択
（➜ 21 ）

音量を調整（➜ 14 ）

ドルビーバーチャルスピーカーモー
ドを選択（➜ 15 ）

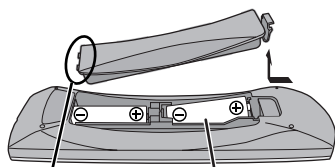
各種調整/設定（ ➜ 15、17）

テレビの入力切り換え、音量の調整
（➜ 20、21）

一時的に音を消す/表示部を暗くする
（➜ 16）

リモコンの準備

乾電池の入れかた

ふたのふちを押しながら開ける

ふたを閉めるときは、こちら側
から先に入れる

リモコンの使いかた

■使用上のお願い
- 受光部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受光部と送信部のほこりに注意。

■本体をラックに入れて使用するとき

ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

ホームシアターの準備

まずはじめに

ホームシアター完成までのステップ

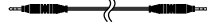
設置について

▼

フロントスピーカーの組み立て

▼

接続 1　スピーカーの接続
本システムでは、付属のフロントスピーカーとサブウーハーだけを接続することができます。
※サラウンドスピーカーなどを追加で接続して5.1CH にはできません。

接続 2　各機器の接続
DVD やテレビなど、お手持ちの機器を接続します。

接続 3　電源コードの接続
必ず最後に接続してください。

▼

デジタル入力端子の設定変更
デジタル入力端子の名前（光1＝テレビ、光2＝DVDレコーダー、同軸＝DVDプレーヤー）どおりに接続を行わなかった場合に、接続した機器にあわせて設定を変更してください。

別売品のご紹介

別売品の品番は、2005年12月現在のものです。品番は変更されることがあります。

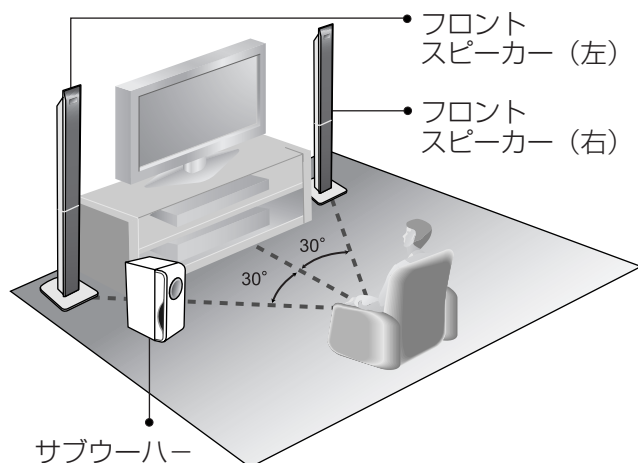
コード/ケーブル名	長さ	品　番
光デジタルケーブル	(0.5 m) (1.0 m) (2.0 m) (3.0 m)	RP-CA2005A RP-CA2010A RP-CA2020A RP-CA2030A
ステレオピンコード	(0.5 m) (1.0 m) (1.5 m) (2.0 m) (3.0 m) (5.0 m) (10.0 m)	RP-CAP3G05 RP-CAP3G10 RP-CAP3G15 RP-CAP3G20 RP-CAP3G30 RP-CAP3G50 RP-CAP3G100
オーディオコード	(1.5 m)	RP-CAM3G15

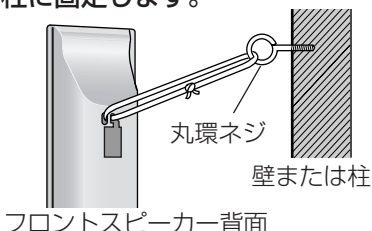
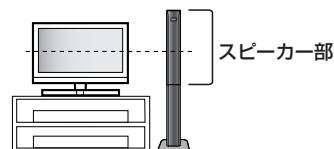
設置について

スピーカーが転倒しないよう、必ず水平な場所にぐらつかないように設置してください。それ以外の場所への設置は、転倒防止などの十分な安全対策を行ってください。

■ **本システムでは付属のフロントスピーカーとサブウーハーを使用します。**
- 他のスピーカーを使用すると、正しい特性の音が得られず、また故障の原因にもなります。
- サラウンドスピーカーやセンタースピーカーなどを接続することはできません。

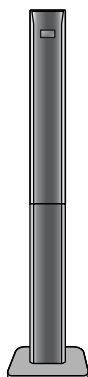
■ **よりよい音響効果を得るには**

テレビ画面とスピーカー部の中心を同じ高さにすると、よりよい音響効果が得られます。

フロントスピーカーの転倒を防ぐには

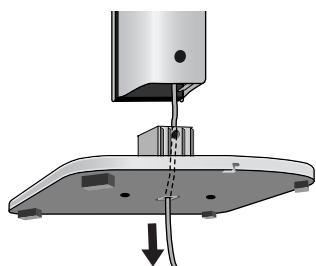
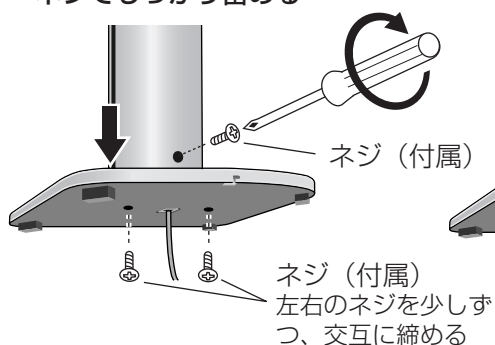
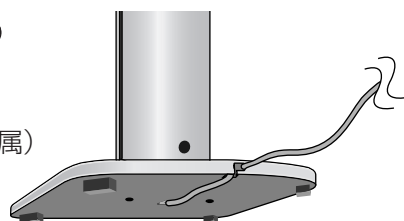
丸環ネジと丈夫なロープ（ともに市販）を使って、壁や柱に固定します。

- 壁や柱の材質に適したネジを使用してください。
- 壁や柱によっては、ネジを使用できない場合があります。詳しくは施工者の方などにご相談ください。

防磁設計について（ブラウン管テレビの場合）
- 本システムのスピーカーは、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステム（防磁設計 JEITA*）ですが、設置のしかたによっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15～30 分後に再び電源を入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーを更に離してご使用ください。
- 近くに磁石等磁気を発生するものが置かれている場合には、本システムのスピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

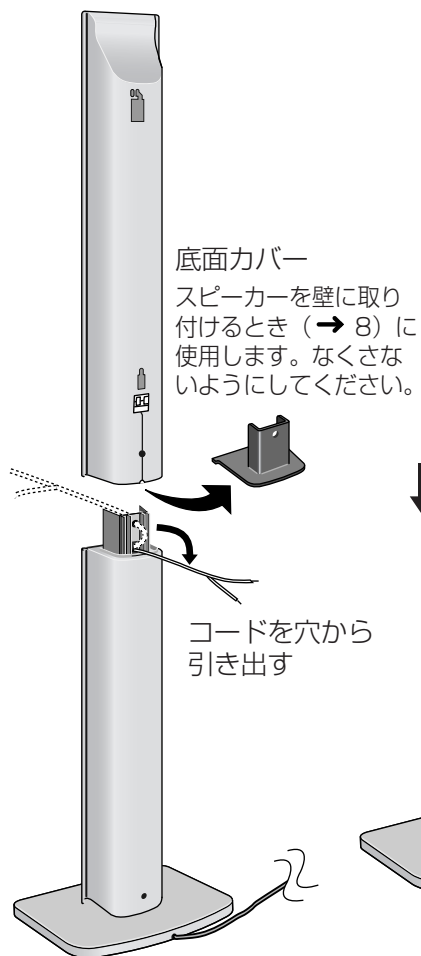
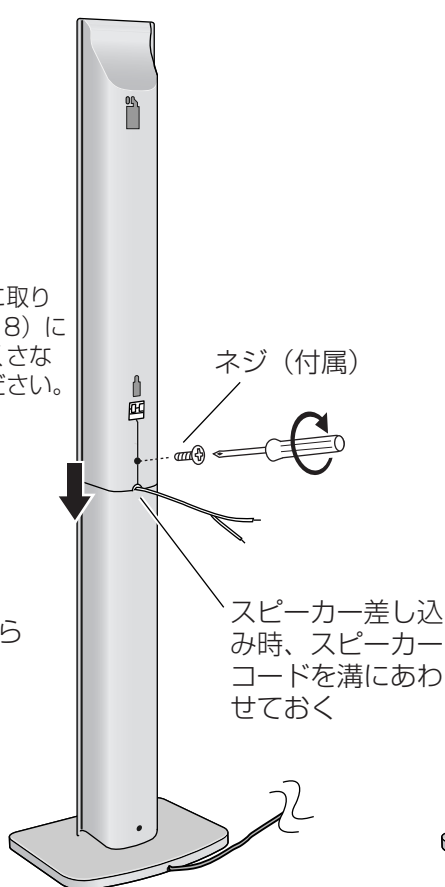
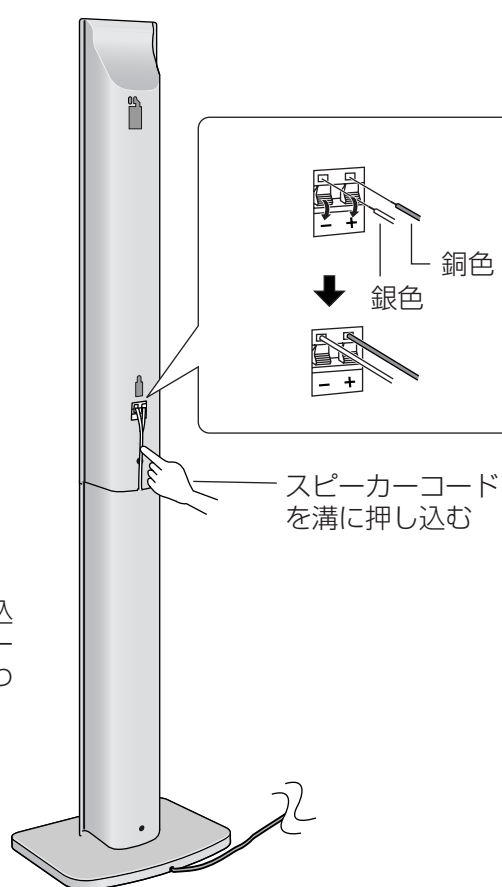
* 「防磁設計 （JEITA）」とは、（社）電子情報技術産業協会の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

フロントスピーカーの組み立て

<完成図>

- スピーカーを傷つけないよう、柔らかい布などの上で組み立ててください。
- プラスのドライバーを用意してください。
- スピーカーおよびスタンドに左右の区別はありません。2本とも組み立て方法は同じです。
- 付属のスピーカースタンドは、本システム専用です。他のスピーカーには使用しないでください。

1 スタンドをベースに取り付ける

1 スピーカーコードをベースの穴に通す

2 スタンドを差し込み、付属のネジでしっかり留める

3 スピーカーコードをベースに固定する

2 スピーカーをスタンドに取り付ける

1 底面カバーをはずし、スピーカーコードを穴から出す

2 スピーカーを差し込み、付属のネジでしっかりと留める

3 スピーカーコードを端子に接続し、溝に押し込む

接続1　スピーカーの接続

左右と＋、－をご確認のうえ、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。

フロント
スピーカー（左）

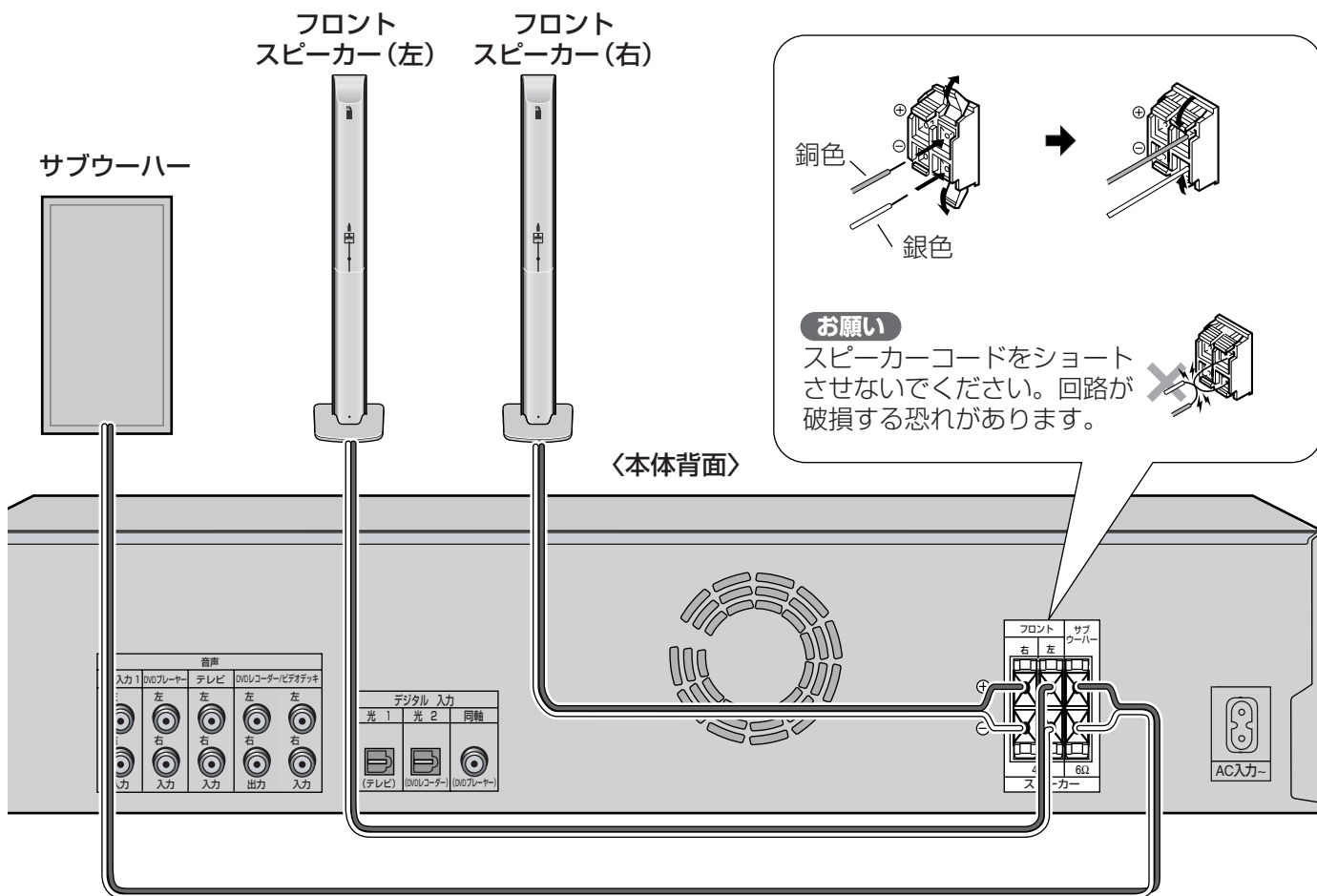
フロント
スピーカー（右）

サブウーハー

銅色

銀色

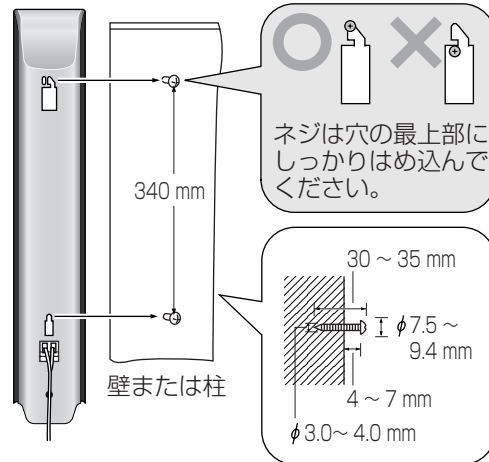
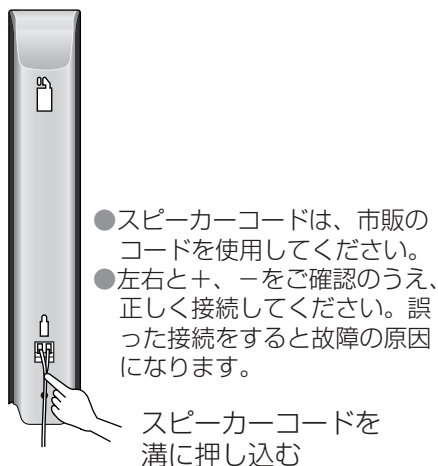
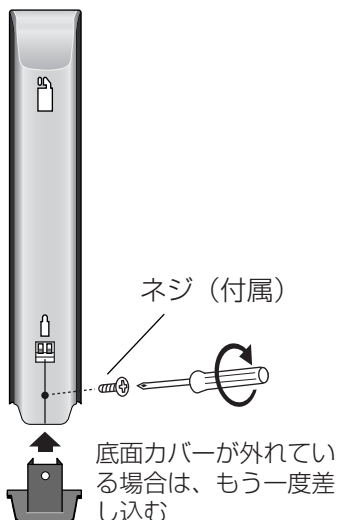
お願い
スピーカーコードをショートさせないでください。回路が破損する恐れがあります。

〈本体背面〉

フロントスピーカーを壁に取り付けるには

1 底面カバーとスピーカーを、付属のネジでしっかり留める

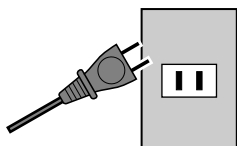
2 スピーカーコードを接続する

3 2つのネジ（市販）を使って、壁や柱に固定する。

●スピーカーコードは、市販のコードを使用してください。
●左右と＋、－をご確認のうえ、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。

●壁や柱は、10 kg 以上の重量を支えられる強度が必要です。詳しくは施工者の方などにご相談ください。
●スピーカーの落下を防ぐために、ロープによる固定（➜ 6）も併用されることをおすすめします。

接続2　各機器の接続

接続する前に

接続するときには、各機器の電源を切ってください。
接続する機器の説明書もご覧ください。
本機の上には物を載せないでください。

使用するケーブル

● 光デジタルケーブル（別売）
角型

光デジタルケーブルの接続方法
ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。
形状を合わせて差し込む

● ステレオピンコード（別売）
(L/左)白
(R/右)赤

● 映像コードに関しては、接続機器の説明書をご覧ください。

別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 6）を参照ください。

DVDレコーダー、テレビを接続する

ケーブルの接続について

まず ▶ デジタル接続（Ⓐ）：マルチチャンネル音声を、理想的なサラウンド効果で楽しむためには、この接続をしてください。

お好みで ▷ アナログ接続（Ⓑ、Ⓒ、Ⓓ）：下記を参考に、用途に応じて接続してください。

Ⓑ: テレビのアナログ音声を聞くとき
Ⓒ: デジタルで再生できないソース（音源）を聞くとき（VHS 付DVD レコーダーでVHS を聞く場合など）
Ⓓ: 本機を介して録音したいとき（そのときは、他の接続機器もアナログ接続してください）

テレビ
映像入力
音声出力 R(右) L(左)
光出力

デジタルチューナー内蔵テレビなど、デジタル出力端子のある場合に接続します。

〈本体背面〉

映像コード
テレビとDVDレコーダーに直接接続してください。

テレビやDVD レコーダーの同軸デジタル出力と接続したい場合
"同軸（DVDプレーヤー）"デジタル入力と、同軸デジタルケーブルで接続してください。
その場合は、「デジタル入力端子の設定変更」（➜ 13）をしてください。

映像出力
R(右) L(左) 音声入力
R(右) L(左) 音声出力
光出力
DVD レコーダー

接続2　各機器の接続（つづき）

使用するケーブル

別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 6）を参照ください。

DVDプレーヤー、テレビを接続する

ケーブルの接続について

まず ▶ デジタル接続（Ⓐ）：マルチチャンネル音声を、理想的なサラウンド効果で楽しむためには、この接続をしてください。

お好みで ▷ アナログ接続（Ⓑ、Ⓒ）：下記を参考に、用途に応じて接続してください。
Ⓑ: テレビのアナログ音声を聞くとき
Ⓒ: デジタルで再生できないソース（音源）を聞くとき（VHS 付DVD プレーヤーでVHS を聞く場合など）

テレビ

映像入力
音声出力
R(右) L(左)
光出力

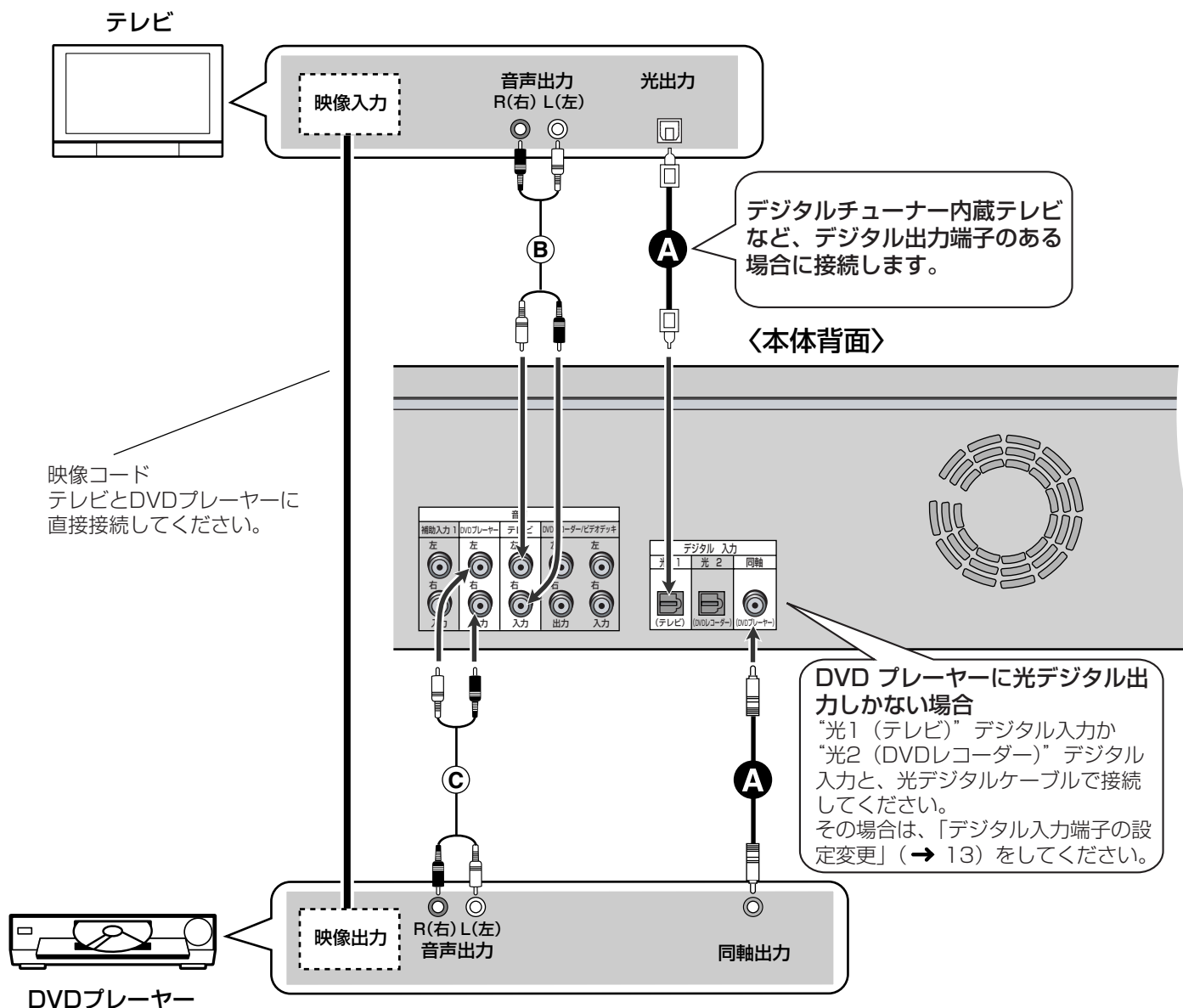
デジタルチューナー内蔵テレビなど、デジタル出力端子のある場合に接続します。

〈本体背面〉

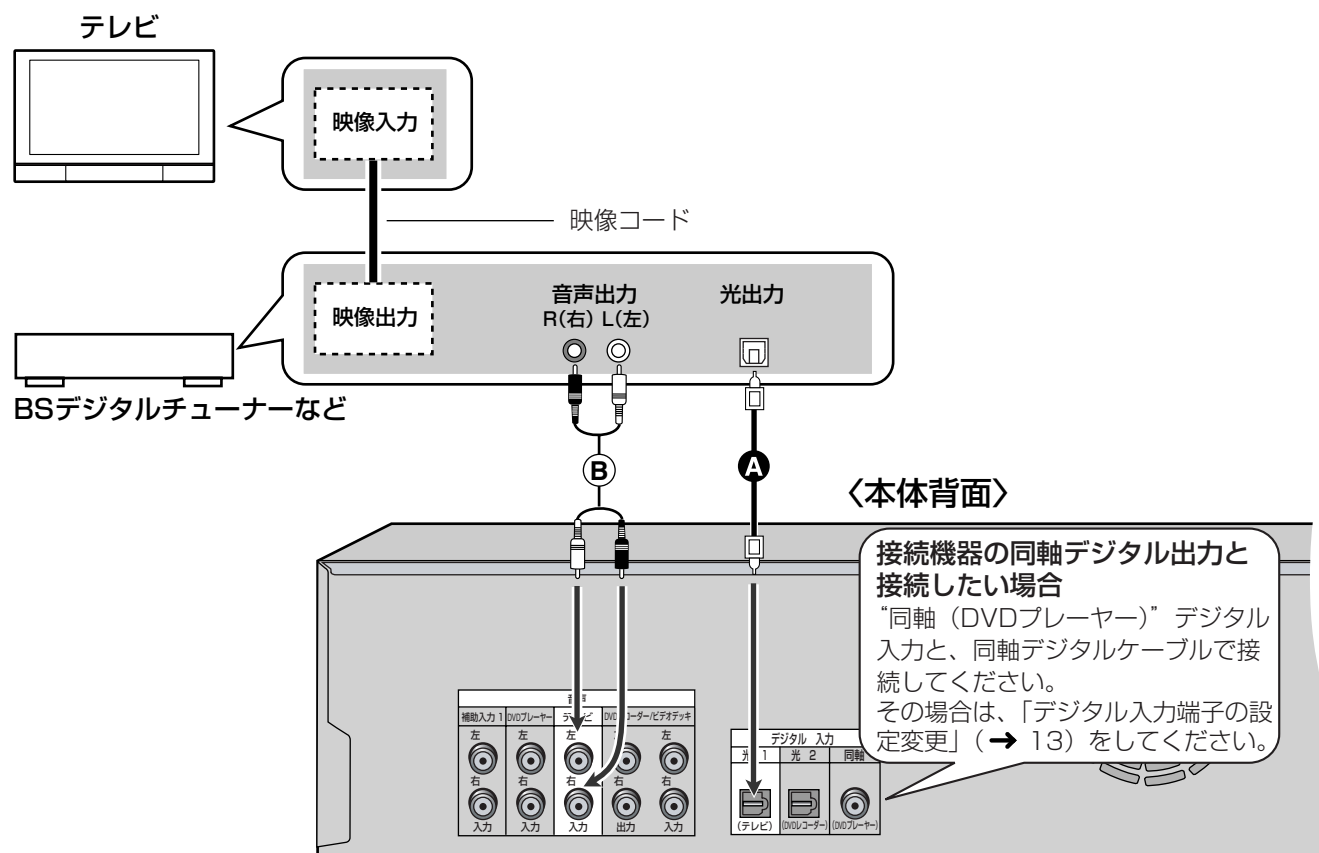
映像コード
テレビとDVDプレーヤーに直接接続してください。

DVD プレーヤーに光デジタル出力しかない場合
"光1（テレビ）" デジタル入力か "光2（DVDレコーダー）" デジタル入力と、光デジタルケーブルで接続してください。
その場合は、「デジタル入力端子の設定変更」（➜ 13）をしてください。

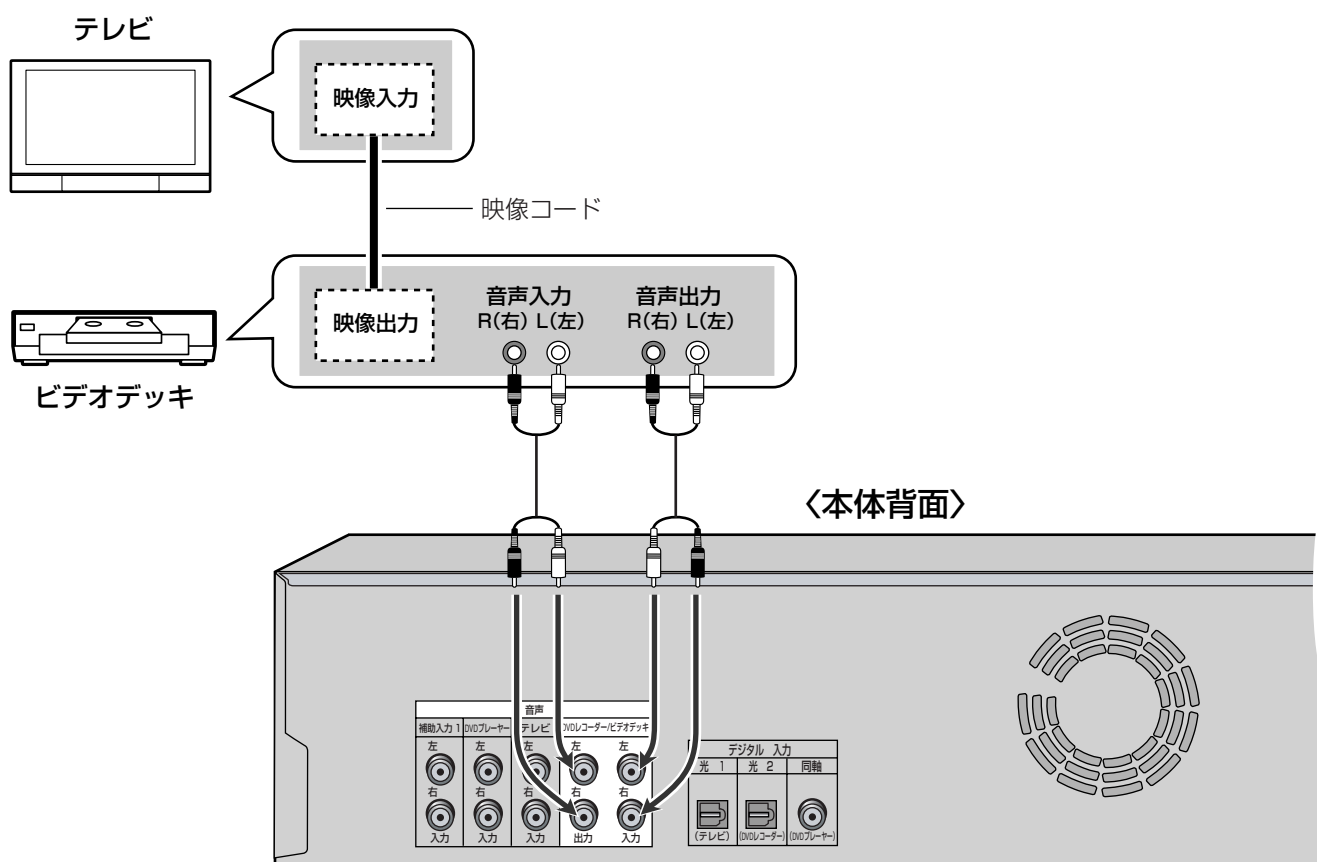
映像出力
R(右) L(左)
音声出力
同軸出力

DVDプレーヤー

BSデジタルチューナーなどを接続する

テレビ用の入力端子を使って、BS デジタルチューナーや CS チューナーなどを接続できます。

デジタル接続（Ⓐ）：接続する機器にデジタル出力端子がある場合は、こちらの接続をしてください。
アナログ接続（Ⓑ）：接続する機器にデジタル出力端子がない場合は、こちらの接続をしてください。

ビデオデッキを接続する

本機のDVDレコーダー/ビデオデッキ端子には、ビデオデッキを接続することもできます。

テレビ
映像入力
映像コード
映像出力
音声入力
R(右) L(左)
音声出力
R(右) L(左)
ビデオデッキ
〈本体背面〉

接続2　各機器の接続（つづき）

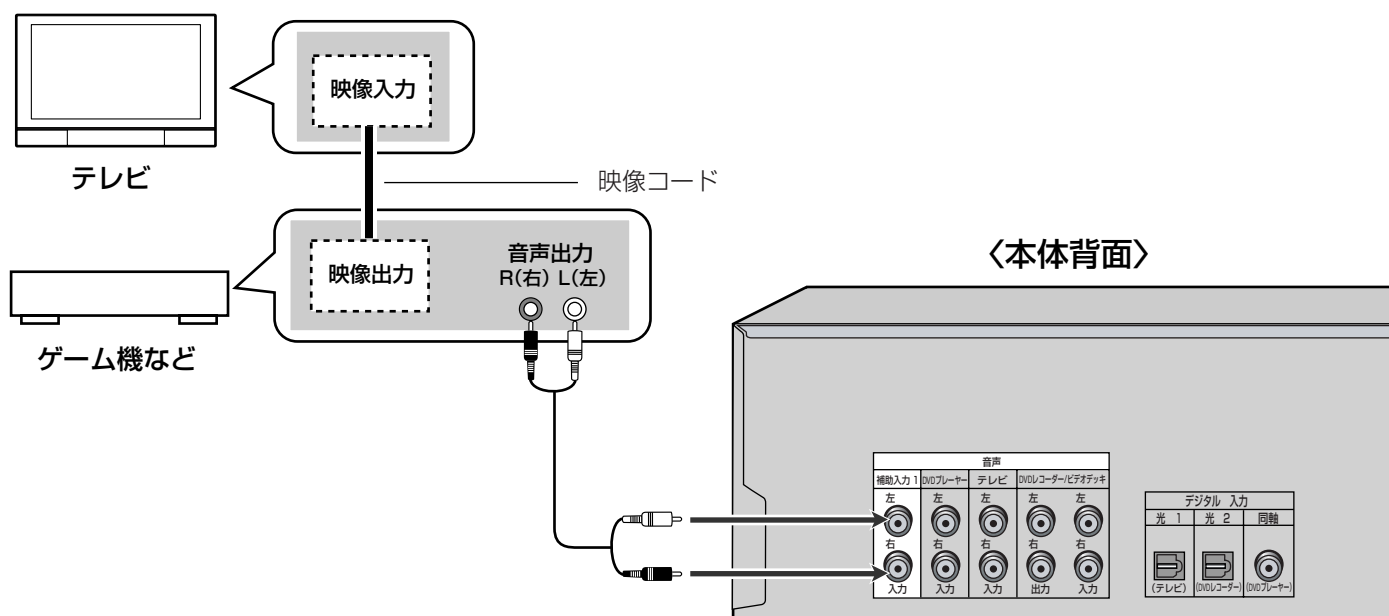
使用するケーブル

● ステレオピンコード（別売）
（L/左）白
（R/右）赤

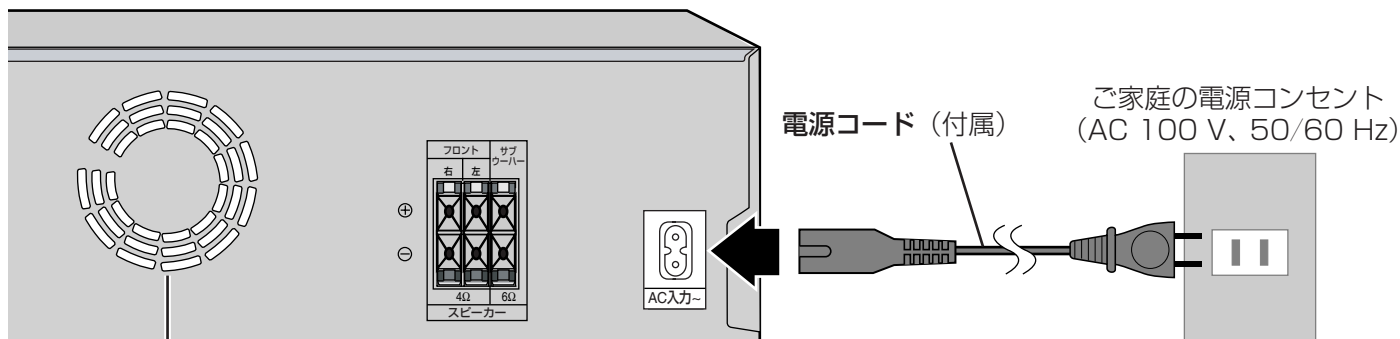
● 映像コードに関しては、接続機器の説明書をご覧ください。

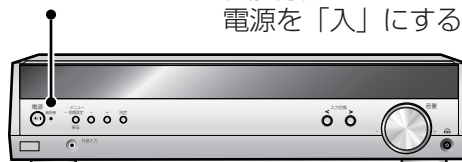
別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 6）を参照ください。

ゲーム機などを接続する

ゲーム機や CD プレーヤーなどを接続できます。

接続3　電源コードの接続

電源コードは必ず最後に接続してください。

電源プラグをコンセントに接続した状態で 約 0.3 W の電力を消費しています。長期間使用しないときは節電のため抜いておくことをおすすめします。

機能待機ランプについて

電源コードを接続すると、電源「切」のときに機能待機ランプが点灯（赤色）します。
電源を「入」にすると消灯します。

デジタル入力端子の設定変更

デジタル入力端子の名前どおり（光1＝テレビ、光2＝DVDレコーダー、同軸＝DVDプレーヤー）に機器を接続していない場合に変更してください。**（名前どおりに接続している場合は変更の必要はありません）**デジタル入力端子の設定を変更すると、再生したい機器を選んだときに（➜ 14）、正しく再生されるようになります。

映画や音楽を楽しむ

本機で再生できるデジタル信号

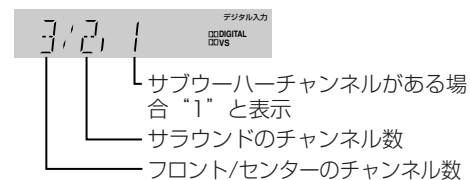
各信号について詳しくは用語解説(➜ 23)をご覧ください。

- ●AAC
- ●ドルビーデジタル
- ●DTS
- ●CD などの PCM 信号（96 kHz、88.2 kHz の PCM 信号も含む。）

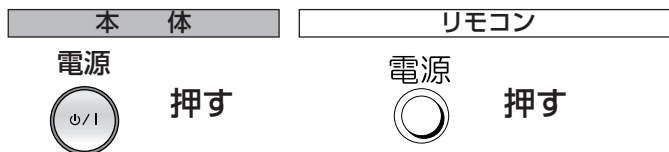
ドルビーデジタル RF 信号や、MPEG 音声信号は再生できません。

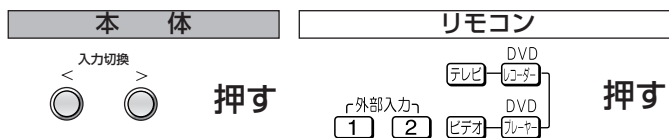
チャンネル数表示について

●デジタル信号が入ってきたときには、チャンネル数がしばらくの間表示されます。

例）5.1 CH デジタル信号

●入力が5.1 CH から2 CH に変わったときなど、信号が切り換わったときにも表示されます。

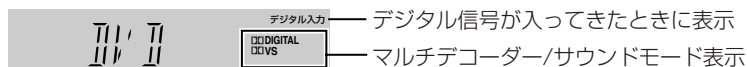
1 本機の電源を入れる

本　体	リモコン
電源　押す	電源　押す

2 再生したい機器を選ぶ（入力ソースを切り換える）

本　体	リモコン
入力切換　押す	外部入力 1 2、テレビ、ビデオ、DVDレコーダー、DVDプレーヤー　押す

DVD	：DVDプレーヤー
TV	：テレビ
DVR/VCR	：DVDレコーダー、ビデオ
AUX 1（外部入力 1）	：本機背面の“補助入力1”端子に接続した機器
AUX 2（外部入力 2）	：本機前面の“外部入力”端子に接続した機器

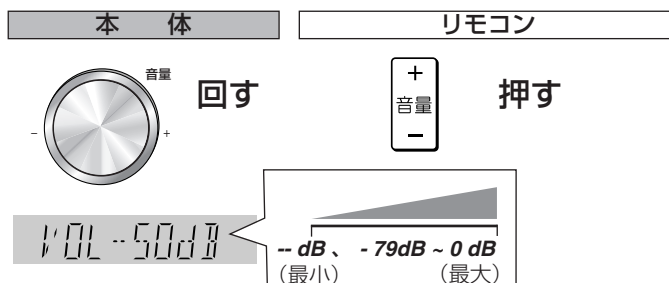
3 機器を再生する

●入力ソースが、ドルビーデジタルや DTS などマルチチャンネルデジタル信号の場合、再生が始まると自動的にドルビーバーチャルスピーカーが働きます。

●再生する信号に応じて、マルチデコーダー/サウンドモード表示（➜ 4）が点灯します。また、デジタル信号が入ってきたときは、表示部に“デジタル入力”が点灯します。

■ **お好みでサウンドモードの変更や解除ができます（➜ 右ページ）**

マルチチャンネルデジタルソースの場合	：ドルビーバーチャルスピーカーのモード変更、または解除ができます。
ビデオやCDなどのステレオソースの場合	：ドルビーバーチャルスピーカーとSFCからお好みのサラウンド効果を選ぶ、またはサラウンド効果の解除ができます。

4 音量を調整する

本　体	リモコン
音量　回す	＋音量－　押す

■ **再生を楽しんだ後は**
音量を下げてから [⏻/I 電源] を押して電源を切ってください。

サウンドモード

ドルビーバーチャルスピーカーおよびSFCの効果は入力ソースによって異なります。実際の音をお聞きのうえ、適したモードを選んでください。

ドルビーバーチャルスピーカーを使う

ドルビーデジタルやDTS などマルチチャンネルデジタルソースでは、自動でこのモードになり、5.1 CHで聞いているようなサラウンド効果が楽しめます。
ビデオやCD などのステレオソースにもサラウンド効果をつけることができます。

リモコン

押して選ぶ

REFERENCE

REFERENCE（標準モード）
左右フロントスピーカーとサブウーハーだけで、5.1CHサラウンド効果が得られます。

WIDE（ワイドモード）
左右の音場を更に広くするモードです。スピーカー間隔が狭い場合に適しています。

■ 解除する ➡ 切 押す

STEREO　　2CH MIX

入力ソースが2CHの場合、STEREOモードになる
サラウンド効果無しの状態

入力ソースがマルチチャンネルの場合、2 CH MIXモードになる
マルチチャンネルの信号を2CHに集約し、左右のフロントスピーカーから出力します。

お知らせ

- PCM のサンプリング周波数が48 kHz を超えるときは、ドルビーバーチャルスピーカーは使用できません。
- ヘッドホンを接続しているときは、ドルビーバーチャルスピーカーは使用できません。

SFC(Sound Field Control)を使う

ビデオやCDなどのステレオソースに好みの臨場感や広がり感を与えたサラウンド効果が楽しめます。

リモコン

SFC 音楽 映画 押して選ぶ

LIVE

音楽	映画
LIVE（ライブ）大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。	**DRAMA**（ドラマ）セリフがメインになるようなドラマに適した効果。
POP/ROCK（ポップ/ロック）ポピュラーやロック音楽に適した効果。	**ACTION**（アクション）迫力のあるアクション映画に適した効果。
VOCAL（ボーカル）ボーカルの声を際立たせる効果。	**SPORTS**（スポーツ）スポーツ観戦しているような臨場感。
JAZZ（ジャズ）ジャズクラブのような狭い部屋の音の反響。	**MUSICAL**（ミュージカル）ミュージカル劇場にいるような臨場感。
DANCE（ダンス）ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。	**GAME**（ゲーム）迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。

■ サラウンド効果の強弱を調整する

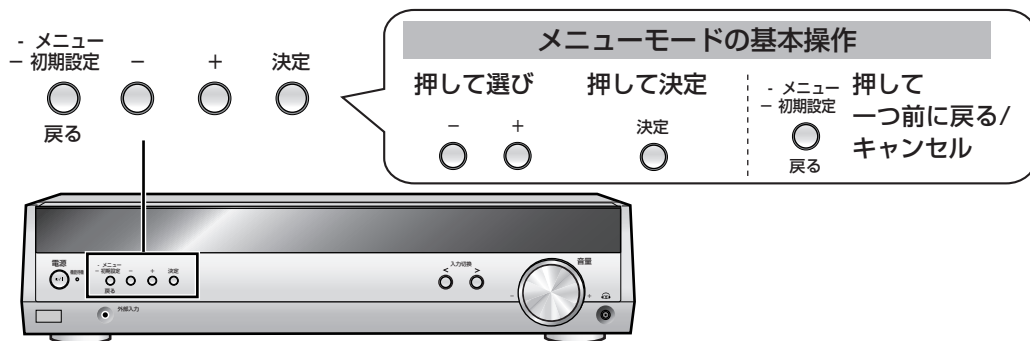
エフェクト 押す ➡ 左 − 右 ＋ 押して調整する

EFFECT 0（最小）～ **EFFECT 3**（最大）
購入時の設定は **EFFECT 1** です。

■ SFCの効果を解除する ➡ 切 押す　STEREO

お知らせ

- マルチチャンネルソース入力時や、PCM のサンプリング周波数が48 kHz を超えるときは、SFCは使用できません。
- ヘッドホンを接続しているときはSFCは使用できません。

便利な機能/音の調整・切り換え

便利な機能

一時的に音を消す

機能が働いている間、表示部に“*MUTING ON NOW*”とくり返し表示(スクロール)されます。

リモコン

[消音] 押す　MUTING ON NOW

■**解除する**　もう一度押す

お知らせ

電源を切ると、消音は解除されます。

表示部を暗くする(ディマー)

部屋を暗くして、映画を見るときなどに便利です。

リモコン

[ディマー] 押す

■**解除する**　もう一度押す

お知らせ

本体で操作すると、明るさを細かく調整できます。(➜ 右記)

本　体

1. [- メニュー] を押し、メニューモードに入る
2. [–] または [+] を押して“*DIMMER*”を選び、[決定] を押す
3. [–] または [+] を押して“*OFF*”(解除)、“*1*”(明るい)、“*2*”または“*3*”(暗い)を選び、[決定] を押す
4. [戻る] を何度か押して“*EXIT*”を表示させ、[決定] を押して終了

スリープタイマー

設定した時間が経過すると自動的に電源が切れます。
就寝時などに便利です。

本　体

1. [- メニュー – 初期設定 / 戻る] 押してメニューモードに入る
2. [–] [+] 押して“***SLEEP***”を選び、　SLEEP OFF　➡ [決定] 押して決定
   (***BASS***、***TREBLE***、***BALANCE***、***DIMMER***、***SLEEP***、***DUAL***、***EXIT***)
   ●“***EXIT***”を選んで決定すると、メニューモードを終了します。
3. [–] [+] 押して設定を選び、　SLEEP 30　➡ [決定] 押して決定
   (***OFF***、***30***、***60***、***90***、***120***(分))
4. [- メニュー – 初期設定 / 戻る] 何度か押して“***EXIT***”を表示させ、　EXIT　➡ [決定] 押して終了

■**残り時間を見る**

1. [- メニュー] を押し、メニューモードに入る
2. [–] または [+] を押して“*SLEEP*”を選ぶ → 残り時間表示
3. [戻る] を何度か押して“*EXIT*”を表示させ、[決定] を押して終了

■**設定時間を変更する**　手順 1からやり直す

■**解除する**　手順3 で“*OFF*”を選ぶ(電源を切っても解除されます。)

音の調整・切り換え

音質の調整

BASS（低音）と TREBLE（高音）を調整できます。

- **入力ソースがドルビーデジタル、DTS、AAC のときや、ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビーヘッドホン 使用時は選択できません。**

リモコン

1　**“*BASS*”または“*TREBLE*”を選ぶ**

押す

BASS*、*TREBLE*、*BALANCE

2　**調整する**

押す

–10 〜 +10

本　体

1. [- メニュー] を押し、メニューモードに入る
2. [–] または [+] を押して“*BASS*”または“*TREBLE*”を選び、[決定] を押す
3. [–] または [+] を押して調整し、[決定] を押す
4. [戻る] を何度か押して“*EXIT*”を表示させ、[決定] を押して終了

音量バランスの調整

左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。

L：フロントスピーカー（左）

R：フロントスピーカー（右）

リモコン

1　**“*BALANCE*”を選ぶ**

押す

BASS*、*TREBLE*、*BALANCE

2　**調整する**

押す

●バーの表示はあくまでも目安です。

本　体

1. [- メニュー] を押し、メニューモードに入る
2. [–] または [+] を押して“*BALANCE*”を選び、[決定] を押す
3. [–] または [+] を押して調整し、[決定] を押す
4. [戻る] を何度か押して“*EXIT*”を表示させ、[決定] を押して終了

サブウーハーレベルの調整

再生中に、サブウーハーの出力レベルを調整できます。

リモコン

***---*、*MIN*（最小）、*5* *10*、*15*、*MAX*（最大）**

●“***---***”を選ぶとサブウーハーから音が出ません。

●音がひずむ場合はレベルを下げてください。

■**細かく調整する**

左 右 **押す**

---、MIN、1〜19、MAX と切り換わります。

入力信号の切り換え

“***AUTO***”（購入時の設定）でほとんどの場合問題なく再生できますが、アナログ音声やデジタル音声が正しく再生できないときは、あらかじめ固定して再生してください。

リモコン

1　**入力（DVD、TVまたはDVR/VCR）を選ぶ**

2　**入力信号の判別方法を選ぶ**

入力モード　**押して選ぶ**

AUTO：自動判別
ANALOG：アナログに固定
DIGITAL：デジタルに固定

お知らせ

“***AUTO***”に設定している場合は、デジタル信号が優先されます。

二重音声の切り換え

AAC 信号の二重音声（受信すると“***DUAL***”と表示）を切り換えることができます。

リモコン

音声切換　**押して選ぶ**

MAIN：主音声
SUB：副音声
MAIN+SUB：主＋副音声

本　体

1. [- メニュー] を押し、メニューモードに入る
2. [–] または [+] を押して“*DUAL*”を選び、[決定] を押す
3. [–] または [+] を押して“*MAIN*”（主音声）、“*SUB*”（副音声）または“*M+S*”（主+副音声）を選び、[決定] を押す
4. [戻る] を何度か押して“*EXIT*”を表示させ、[決定] を押して終了

入力信号をPCMまたはDTSに固定する

正しく再生できる場合はこの設定を行う必要はありません。

PCM FIX：
CDなどのPCM 信号を再生したとき、冒頭が音切れするような場合に設定します。

DTS FIX：
DTS 信号を自動判別しないような場合に設定します。

リモコン

1　**入力モードを“*DIGITAL*”にする**
（➜ 上記「入力信号の切り換え」）

2　**設定を選ぶ**

約 4 秒押したままにする
下記のような表示が出た後、再度押して切り換える。

AUTO*、*PCM FIX*、*DTS FIX

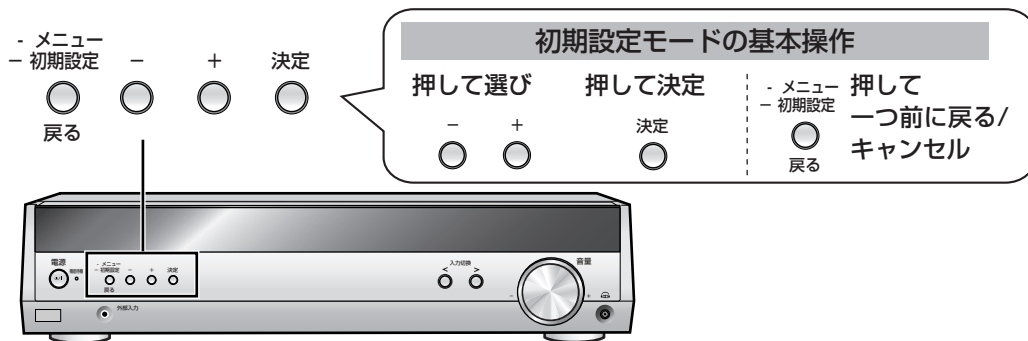
■**解除する**　“***AUTO***”を選ぶ

お知らせ

PCM と DTS の信号が両方入った DTS-CD が、正しく再生されない場合は、“*DTS-PCM*”を“*YES*”（入）にすることで正しく再生されることがあります。ただし、その結果雑音が発生したときは、“*NO*”（切）に戻してください。

<本体操作>

1. [–初期設定] を“*DIG INPUT*”と表示されるまで押したままにする
2. [–] または [+] を押して“*DTS-PCM*”を選び、[決定] を押す
3. [–] または [+] を押して“*YES*”（入）または“*NO*”（切）を選び、[決定] を押す
4. [戻る] を何度か押して“*EXIT*”を表示させ、[決定] を押す

その他の設定

小音量でも聞きやすくする

ダイナミックレンジの圧縮に対応したドルビーデジタルのみ

音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすい音にします。
深夜など大きな音を出せない場合に便利です。

1. [メニュー・初期設定／戻る] を、"DIG INPUT" と表示されるまで押したままにする
2. [－][＋] 押して "DRCOMP" を選び、（表示：DRCOMP）→ [決定] 押して決定
   - DIG INPUT、DRCOMP、ATTENUATOR、DTS-PCM、RESET、EXIT
   - ●"EXIT" を選んで決定すると、初期設定モードを終了します。
3. [－][＋] 押して設定を選び、（表示：STANDARD）→ [決定] 押して決定
   - **OFF**：通常の再生
   - **STANDARD**：ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベル
   - **MAX**：深夜視聴を前提とした最大の圧縮
4. [メニュー・初期設定／戻る] 何度か押して "EXIT" を表示させ、（表示：EXIT）→ [決定] 押して終了

アッテネーターの切り換え

アナログ入力で再生中、音がひずみ、表示部に "OVERFLOW" が点滅表示した場合は "ON（入）" にしてください。

1. [メニュー・初期設定／戻る] を、"DIG INPUT" と表示されるまで押したままにする
2. [－][＋] 押して "ATTENUATOR" を選び、（表示：ATTENUATOR）→ [決定] 押して決定
   - DIG INPUT、DRCOMP、ATTENUATOR、DTS-PCM、RESET、EXIT
   - ●"EXIT" を選んで決定すると、初期設定モードを終了します。
3. [－][＋] 押して設定を選び、（表示：ON）→ [決定] 押して決定
   - OFF（切）、ON（入）
4. [メニュー・初期設定／戻る] 何度か押して "EXIT" を表示させ、（表示：EXIT）→ [決定] 押して終了

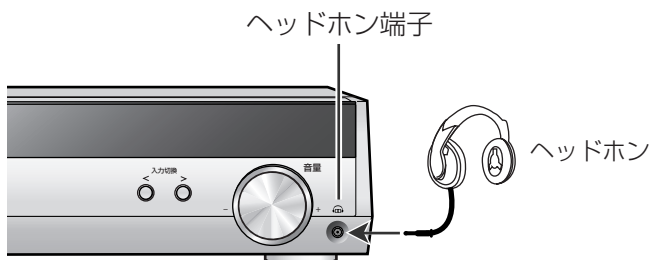
購入時の設定に戻す（リセット）

本機の設定を購入時の状態に戻します。

1. [メニュー・初期設定／戻る] を、"DIG INPUT" と表示されるまで押したままにする
2. [－][＋] 押して "RESET" を選び、（表示：RESET）→ [決定] 押して決定
   - DIG INPUT、DRCOMP、ATTENUATOR、DTS-PCM、RESET、EXIT
   - ●"EXIT" を選んで決定すると、初期設定モードを終了します。
3. [－][＋] 押して設定を選び、（表示：RESET YES）→ [決定] 押して決定
   - YES、NO

- ●"YES" を選ぶと、すべての設定がリセットされ、自動的に**DVD** になります。
- ●"NO" を選ぶと、手順2 に戻ります。初期設定モードを終了させるには、[戻る] を何度か押して "EXIT" を表示させ、[決定] を押してください。

ヘッドホンで楽しむ

音量をできるだけ下げた状態で接続してください。
●プラグタイプ：φ3.5 mm ステレオミニプラグ

●耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。

ドルビーヘッドホン

ヘッドホンを接続すると働きます。

ドルビーヘッドホンは、音響特性の良いリスニングルームに最大5本までのスピーカーを設置した状態をバーチャル化するので、通常のステレオヘッドホンで5.1CHの立体音場が体感できるようになります。

入力ソースがマルチチャンネルソースなどの場合

入力ソース（音源）を再生する（➜ 14）と、自動でドルビーヘッドホンモードに切り換わります

ドルビーヘッドホンモードの設定変更はできません。

■ 解除する ➡ 切 押す

2CH MIXモードになります。
再度ドルビーヘッドホンを働かせるには［DD ヘッドホン］を押してください。

入力ソースが2CHステレオソースの場合

ビデオや CD などのステレオ音声にも効果があります。
初期設定はドルビーヘッドホンモード「入」です。

1 入力ソース（音源）を再生する（➜ 14）

2 DDヘッドホン 押して選ぶ

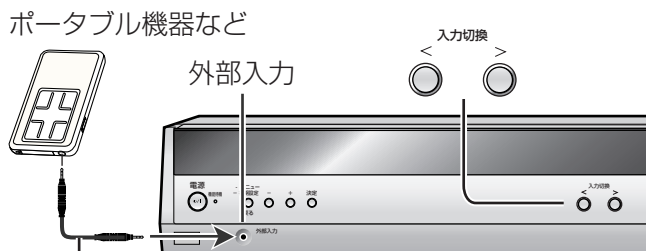
表示部に“DD H”と“DD PLⅡ”が点灯するとき	：5.1CH音声で聞いてるような立体感のある音で楽しめます。
表示部に“DD H”が点灯するとき	：自然なサラウンド感のある音で楽しめます。

■ 解除する ➡ 切 押す

STEREOモードになります。
再度ドルビーヘッドホンを働かせるには［DD ヘッドホン］を押してください。

(お知らせ)
PCM 信号のサンプリング周波数が 48 kHz を超えるときは、ドルビーヘッドホンは使用できません。

ポータブル機器などを一時的に接続する

本機前面にある外部入力端子に接続すると取り外しが簡単で便利です。
●プラグタイプ：φ3.5 mm ステレオミニプラグ

別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 6）を参照ください。

再生する

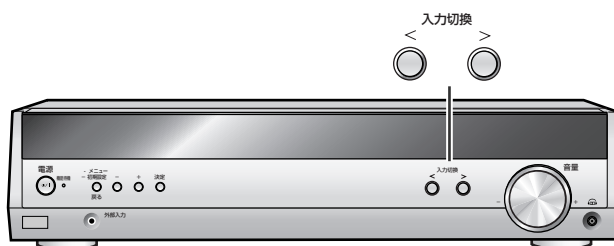
1 **“AUX 2”を選ぶ**

2 **接続した機器の再生を始める**

録音する

本機のDVD レコーダー/ビデオデッキ出力端子に接続した機器で、入力ソース（音源）の音声を録音することができます。
●DVD レコーダーやビデオデッキに録画する場合は、再生機器の映像出力端子と録画機器の映像入力端子を、映像コードで接続してください。
●各機器の説明書もご覧ください。

1 **録音するソース（音源）を選ぶ**

押す

2 **録音を始める**

3 **録音するソース（音源）の再生を始める**

(お知らせ)
●DVD レコーダー/ビデオデッキ入力端子の音声は、DVD レコーダー/ビデオデッキ出力端子から出力されません。
●デジタル信号をDVD レコーダー/ビデオデッキ出力端子から出力することはできません。

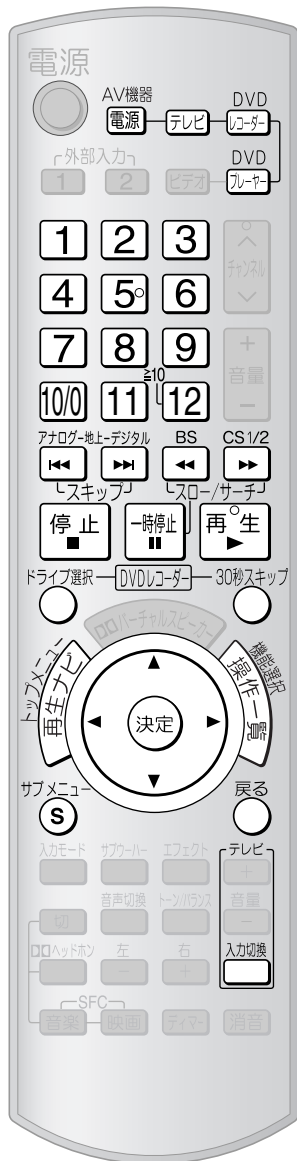
音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。 特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

リモコンでテレビやDVD などを操作する

当社製のテレビ、 DVD レコーダー、DVD プレーヤー、およびビデオデッキを本機のリモコンで操作できます。（ただし操作のできない機種もあります。）各操作について詳しくは、各々の機器の説明書をご覧ください。

操作する機器に向けて

DVD を見る

1 TVを準備する

テレビ → AV機器 電源 → 入力切換

リモコンをテレビ操作モードに切り換える → 電源を入れる → テレビの入力を切り換える（ビデオ 1 など）

2 DVD レコーダー／DVD プレーヤーの電源を入れる

DVD レコーダー → AV機器 電源 または DVD プレーヤー → AV機器 電源

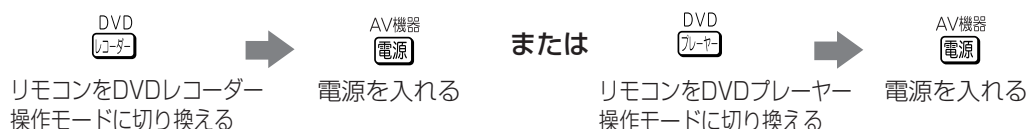
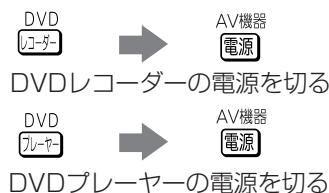
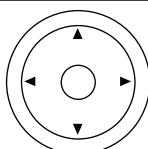
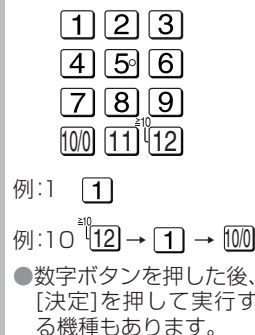
リモコンをDVDレコーダー操作モードに切り換える → 電源を入れる

または

リモコンをDVDプレーヤー操作モードに切り換える → 電源を入れる

3 再生する

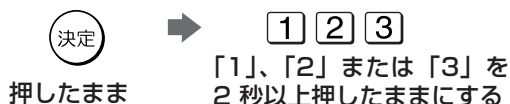
再生 ▶

テレビ／DVDレコーダー／DVDプレーヤーの電源を切る	DVD レコーダー → AV機器 電源 DVDレコーダーの電源を切る DVD プレーヤー → AV機器 電源 DVDプレーヤーの電源を切る	テレビ → AV機器 電源 テレビの電源を切る

操作	ボタン
再生ナビを表示する/トップメニューを表示する	トップメニュー 再生ナビ
サブメニューを表示する	サブメニュー S
操作一覧を表示する/機能選択をする	機能選択 操作一覧
項目を選ぶ [再生ナビ]、[サブメニュー] や [操作一覧] を押した後に操作してください。	▲▼◀▶
選んだ項目を実行する	決定
前の画面に戻る	戻る
DVD/HDD（ハードディスク）/SDを切り換える (HDDやSDのあるDVD レコーダーのみ)	ドライブ選択 ●切り換わらないときは、下記の操作を行った後、もう一度ボタンを押してください。 1. [決定]を押したまま、[8]または[9]を約 2 秒押す 2. [DVD レコーダー]を押す (購入時の設定：[9])

操作	ボタン
トラックやチャプターを直接選ぶ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10/0 11 ≧10 12 例:1 [1] 例:10 [≧10 12] → [1] → [10/0] ●数字ボタンを押した後、[決定]を押して実行する機種もあります。
トラックやチャプターを飛び越す（スキップ）	アナログ・地上・デジタル ⏮ ⏭ スキップ
見たい場所を探す（サーチ）	BS ◀◀ CS1/2 ▶▶ スロー/サーチ
一時停止する	一時停止 ❚❚
再生を停止する	停止 ■
スロー再生	一時停止 ❚❚ → BS ◀◀ CS1/2 ▶▶ スロー/サーチ
コマ送り	一時停止 ❚❚ → ◀ ▶
30秒先へスキップする（DVD レコーダーのみ）	30秒スキップ

本機のリモコンで当社製のDVD レコーダーを操作する場合は

DVD レコーダーと本機のリモコンのリモコンモードを一致させてください。
DVD レコーダーのリモコンモードに合わせて、本機のリモコンモードを切り換えます。

押したまま

「1」、「2」または「3」を 2 秒以上押したままにする

●押した数字ボタンに応じて、「モード1」、「2」または「3」がリモコン側に設定されます。
●初期設定は、「モード1」です。

操作する機器に向けて

テレビを見る

1　TVを準備する

テレビ → AV機器 電源 → 入力切換

リモコンをテレビ操作モードに切り換える

電源を入れる

テレビの入力を切り換える

2　放送を選ぶ

アナログ-地上 または 地上-デジタル または BS または CS1/2

地上アナログ放送を選ぶ

地上デジタル放送を選ぶ

BS放送を選ぶ

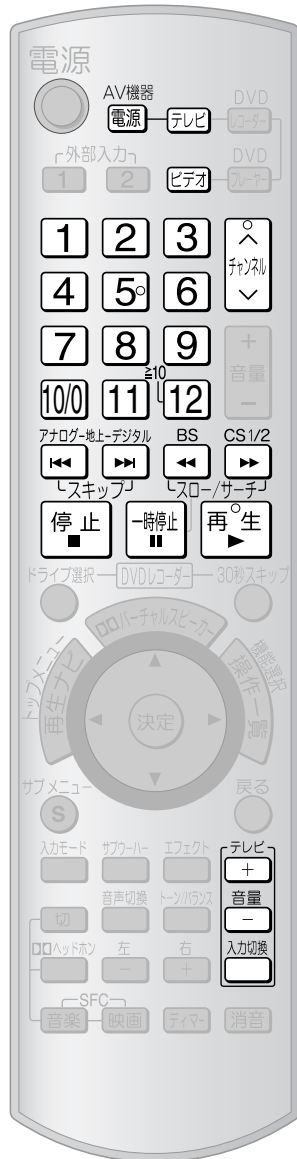
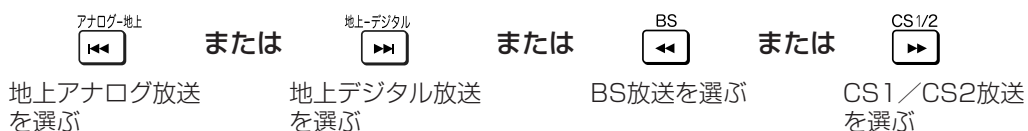
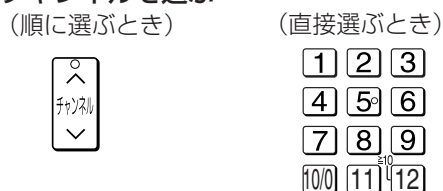
CS1／CS2放送を選ぶ

3　チャンネルを選ぶ

（順に選ぶとき）

チャンネル

（直接選ぶとき）

1 2 3
4 5 6
7 8 9
10/0 11 12

テレビの電源を切る	テレビ → AV機器 電源

テレビの音量を調整する	テレビ ＋ 音量 −

■ テレビのチャンネルが操作できない場合は

地上アナログのみ対応のテレビの場合、他の放送切り換えボタンを押すと、テレビのチャンネルが操作できなくなります。再度、［アナログ-地上］ボタンを押して、地上アナログ放送に切り換えてください。

ビデオを見る

1　TVを準備する

テレビ → AV機器 電源 → 入力切換

リモコンをテレビ操作モードに切り換える

電源を入れる

テレビの入力を切り換える（ビデオ１など）

2　ビデオデッキの電源を入れる

ビデオ → AV機器 電源

リモコンをビデオ操作モードに切り換える

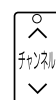
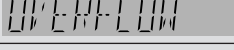
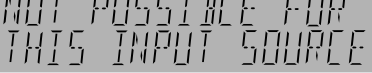
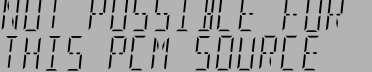
電源を入れる

3　再生する

再生

テレビ／ビデオデッキの電源を切る	ビデオ → AV機器 電源 ビデオデッキの電源を切る	テレビ → AV機器 電源 テレビの電源を切る

巻戻し／早送りをする	BS CS1/2 スロー/サーチ
一時停止する	一時停止
再生を停止する	停止

チャンネルを選ぶ	（順に選ぶとき） チャンネル （直接選ぶとき） 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10/0 11 12

こんな表示が出たら

表示	調べるところ・原因・対策	ページ
F76 （表示したあと、電源が切れます。） FAN LOCK	● スピーカーコードがショートしていませんか。または異常に温度が高い場所で本機を使用していませんか。 原因を解消のうえ、電源を入れ直してください。それでも直らない場合は、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
F70	● 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
OVERFLOW	● アッテネーターの切り換えを行ってください。	18
NOT POSSIBLE FOR THIS INPUT SOURCE （スクロール表示）	● 入力ソース（音源）がドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル信号のときは、SFCを使用できません。 ● 入力ソース（音源）が二重音声ではないので、二重音声の切り換えができません。	15 17
NOT POSSIBLE FOR THIS PCM SOURCE （スクロール表示）	● サンプリング周波数が48 kHz を超えるPCM信号のときは、ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビーヘッドホンは使用できません。	15、19
NOT POSSIBLE WHEN USING HEADPHONES （スクロール表示）	● ヘッドホンを接続しているときは、ドルビーバーチャルスピーカーとSFCは使用できません。	15、19

故障かな!？

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを処置・確認してください	ページ
共通	電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	12
共通	機器の再生を始めても音や映像が出ない。	● 入力ソースを正しく選択してください。 ● 消音を解除してください。 ● 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。 ● スピーカーや機器が正しく接続されているか確認してください。 ● デジタル入力端子の設定を確認してください。 ● 入力信号をデジタルまたはアナログに固定してください。 ● PCM FIX モードまたは DTS FIX モードを解除してください。	14 16 14 6～12 13 17 17
共通	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	5
共通	電源を切っても機能待機ランプが点灯する。	● コンセントに電源コードを接続すると、電源「切」のときに 機能待機ランプが点灯します。なお、電源「入」にすると消灯します。	12
共通	DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	● DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。	10、17
共通	DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS 表示が点灯しない。	● DVD レコーダーまたは DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定を確認してください。	–
共通	48 kHz を超えるサンプリング周波数のDVD を再生しても音が出ない。	● 著作権保護の理由などでデジタル接続では音声が出ないディスクがあります。	–
サウンドモード	サラウンドで音が聞こえない。	● ドルビーバーチャルスピーカーまたはSFCを設定してください。	14、15
サウンドモード	ドルビーバーチャルスピーカー、SFCまたはドルビーヘッドホン が使えない。	● サンプリング周波数が48 kHz を超えるPCM信号のときは使用できません。アナログ端子に接続してください。	9、10
サウンドモード	BSデジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	● BS デジタルチューナーの音声出力を AAC に切り換えてください。	–

Q&A（よくあるご質問）

Q （質問）	A （回答）
マイクを接続したい。	本機には接続できません。
長時間使用すると、本機が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。 ただし、本体上部や側面の放熱孔、背面の冷却ファンを物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
サラウンドやセンタースピーカーなどを接続できるか。	本システムではできません。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。
VIERA LINK（HDAVI Control）機能（当社製テレビVIERAで、接続機器の動作をコントロールする機能）は使えるか	VIERA LINK（HDAVI Control）機能は、HDMI ケーブルで接続することにより使用可能になります。本機にはHDMI 端子がないので、使用できません。

用語解説

アナログ
一般的な再生機器に装備されている左（L）/右（R）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。１秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、回数が多ければ多いほど原音に近い音を再現でき、高音質になります。

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズにうもれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

デコーダー、デコード
DVD などに符号化して記録した音声データを通常の音声信号に戻す装置をデコーダーといいます。また、この処理をデコードといいます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

ドルビーサラウンド
ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのフロントチャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）のアナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光デジタルケーブルを使用して接続します。アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に光（OPTICAL）端子がある場合に使用できます。

マルチチャンネル
フロント、センター、サラウンドスピーカーで構成された音声信号です。本機では、マルチチャンネル信号は自動的にドルビーバーチャルスピーカーモードで再生します。

AAC信号
ＢＳデジタル放送に採用されている圧縮音声です。 マルチチャンネルのサラウンド音声を再生できます。

Dolby Digital（DVDなど）
ドルビー研究所によって開発されたデジタルサラウンドシステムです。

Dolby Pro Logic Ⅱ
ドルビーサラウンドだけでなく、2 ch で記録されたあらゆるソースを、よりリアルな音場で5.1 ch 音声に変換します。従来の2 ch 音声（モノラル音声は除く）だけで記録された古い映画も、5.1 ch の迫力ある音声で楽しめます。本機では、ビデオやCDなどのステレオソースにサラウンド効果をつけるときに使用されます。

Dolby Virtual Speaker
フロントスピーカーとサブウーハーだけで、マルチチャンネルサラウンドの効果を得られるシステムです。単なる仮想サラウンドと異なり、5.1 ch における理想のスピーカー配置と人の聴覚との関係を表現します。

DTS信号（DVDなど）
DTS社が開発したデジタルサラウンドシステムです。

PCM信号（CDなど）
アナログ信号を圧縮せずに、デジタルでコード化された信号。これはCDなどに使用されたデジタルオーディオ信号の形式です。

5.1 chサラウンド
「モノラル」は1つのスピーカーで、「ステレオ」は2つのスピーカーで音声を再生しますが、5.1 ch サラウンドでは5つのスピーカーとサブウーハーが1つ使われます。視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5 ch、サブウーハーは他のスピーカーよりも再生できる音域が狭いため0.1とし、すべてを使って再生することを5.1 ch サラウンド再生と言います。本機では、ドルビーバーチャルスピーカーモードで、5.1 ch で聞いているような音響効果を楽しむことができます。

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

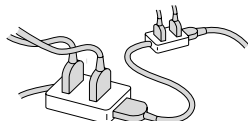
⚠ 警告

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

［傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。］

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- 抜くときは、プラグを持ち、まっすぐ抜いてください。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

機器内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたり濡らしたりしない

ショートや発熱により火災や感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

異常があったときは電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- 機器内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき
- 煙や異臭、異音が出たり、落下、破損したとき

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

- 販売店にご相談ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

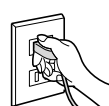
プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ·ゆるんだコンセントは使用しないでください。

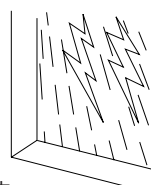
分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

- 内部の点検や修理は、販売店へご依頼ください。

雷が鳴ったら、機器や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

本機のイラスト（姿図）は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが御了承ください。

⚠ 警告

電池は誤った使い方をしない

- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない
- ⊕と⊖を針金などで接続しない
- 金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに持ち運んだり、保管しない
- ⊕と⊖を逆に入れない
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない
- 被覆のはがれた電池は使わない
- 乾電池の代用として充電式電池を使わない

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。

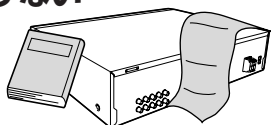
使い切った電池は、すぐに機器から取り出す

そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱、破裂の原因になります。

電池の液がもれたときは、素手で液をさわらず、以下の処置をする

- 液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

⚠ 注意

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になります。

不安定な場所に設置しない

- 上に大きなもの、重いものを載せない
- 取扱説明書に記載されている以外の方法で壁などに取り付けない

機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

油煙や湯気の当たるところや湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

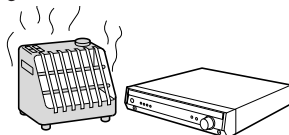
接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。

また、引っかかったりして、けがの原因になることがあります。

機器に乗ったり、ぶらさがったり、もたれたりしない

倒れたりして、けがの原因になることがあります。

●特にお子様にはご注意ください。

異常に温度が高くなるところに置かない

機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。

●直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

スピーカーは付属のものを接続する

付属以外のスピーカーを接続すると、スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。

長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出す

電池の液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

お手入れ

柔らかい布でふいてください。
ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤(中性)を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

保証とアフターサービス （よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- 使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書 （別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

22ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。次の修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

松下電器産業株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

ご連絡いただきたい内容			
製品名	ホームシアターオーディオシステム	お買い上げ日	年　月　日
品　番	SC-HT08	故障の状況	できるだけ具体的に

修理に関するご相談

ナショナル パナソニック　修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） **0570-087-087**

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
- 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時〜20時

電話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**

FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256-5444 **Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays/Sundays/national holidays)

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

ナショナル パナソニック

修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

北海道地区

窓口	所在地	電話番号
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通16丁目1166	☎(0166)22-3011
帯広	帯広市西20条北2丁目23-3	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

窓口	所在地	電話番号
青森	青森市大字浜田字豊田364	☎(017)775-0326
秋田	秋田市東通り2丁目1-7	☎(050)5519-6348
岩手	盛岡市厨川5丁目1-43	☎(019)645-6130
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	☎(023)641-8100
福島	郡山市亀田1丁目51-15	☎(024)991-9308

首都圏地区

窓口	所在地	電話番号
栃木	宇都宮市上戸祭3丁目3-19	☎(028)689-2555
群馬	前橋市箱田町325-1	☎(027)254-2075
茨城	つくば市筑穂3丁目15-3	☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区末広5丁目9-5	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎(055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎(025)286-0171

中部地区

窓口	所在地	電話番号
石川	金沢市横川3丁目20	☎(076)280-6608
富山	富山市根塚町1丁目1-4	☎(076)424-2549
福井	福井市問屋町2丁目14	☎(0776)25-5001
長野	松本市寿北7丁目3-11	☎(0263)86-9209
静岡	静岡市駿河区有東2丁目3-22	☎(054)287-9000
愛知	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岐阜	岐阜市中鶉4丁目42	☎(058)278-6720
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	久居市野村町字山神421	☎(059)255-1380

近畿地区

窓口	所在地	電話番号
滋賀	栗東市霊仙寺1丁目1-48	☎(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎(078)272-6645

中国地区

窓口	所在地	電話番号
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山市田中138-110	☎(086)242-6236
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎(082)295-5011
山口	山口県吉敷郡小郡町下郷220-1	☎(083)973-2720

四国地区

窓口	所在地	電話番号
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-6388
徳島	徳島市沖浜2丁目36	☎(088)624-0253
高知	高知市仲田町2-16	☎(088)834-3142
愛媛	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1	☎(089)905-7544

九州地区

窓口	所在地	電話番号
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	名瀬市長浜町10-1	☎(0997)53-5101

沖縄地区

窓口	所在地	電話番号
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

1005

さくいん

主な仕様

■ アンプ部

実用最大定格
- **フロント(L/R)** 80 W + 80 W(1 kHz 4 Ω、JEITA)
- **サブウーハー** 140 W(100 Hz 6 Ω、JEITA)

定格出力(各ch動作時)
- **フロント(L)** 80 W(1 kHz 4 Ω 10 %)
- **フロント(R)** 80 W(1 kHz 4 Ω 10 %)
- **サブウーハー** 140 W(100 Hz 6 Ω 10 %)
- 合計 300 W

負荷インピーダンス
- **フロント(L/R)** 4 Ω
- **サブウーハー** 6 Ω

入力感度/入力インピーダンス
- **DVDプレーヤー、テレビ、DVDレコーダー/ビデオデッキ、補助入力1** 450 mV/47 kΩ
- **外部入力** 250 mV/47 kΩ

信号対雑音比(S/N)
- **DVDレコーダー、テレビ(デジタル入力)** 85 dB

トーンコントロール特性
- **低音** 50 Hz、+10 〜 −10 dB
- **高音** 20 kHz、+10 〜 −10 dB

デジタル入力	(光)	2
	(同軸)	1

■ フロントスピーカー部 (SB-FS08)

- **形式** 2ウェイ、2スピーカー、バスレフ型
- **スピーカー**
  - **ウーハー** 6.5 cm コーンタイプ
  - **ツイーター** 6 cm リングシェープドドームタイプ
- **許容入力(IEC)** 80 W(最大/4 Ω)
- **出力音圧レベル** 81 dB/W(1.0 m)
- **クロスオーバー周波数** 7 kHz
- **再生周波数帯域** 88 Hz 〜 50 kHz (−16 dB)、100 Hz 〜 45 kHz (−10 dB)
- **寸法(幅×高さ×奥行き)** 250 mm × 1125 mm × 234 mm
- **質量** 約 3.7 kg

■ サブウーハー部 (SB-W08)

- **形式** 1ウェイ、1スピーカー、バスレフ型
- **スピーカー**
  - **ウーハー** 16 cm コーンタイプ
- **許容入力(IEC)** 140 W(最大/6 Ω)
- **出力音圧レベル** 78 dB/W(1.0 m)
- **再生周波数帯域** 31 Hz 〜 500 Hz (−16 dB)、38 Hz 〜 400 Hz (−10 dB)
- **寸法(幅×高さ×奥行き)** 182 mm × 392 mm × 266 mm
- **質量** 約 3.7 kg

■ 総合

- **電源** AC 100 V、50/60 Hz
- **消費電力(本体)** 135 W
- **寸法(本体)(幅×高さ×奥行き)** 430 mm × 105 mm × 385 mm
- **質量(本体)** 約 3.6 kg

電源スタンバイ時の消費電力	約 0.3 W

注)
1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる第10 次高調波までの総和です。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
:JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性−第3-2部:限度値−高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20 A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

—このマークがある場合は—

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークはEU域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

愛情点検 **長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を!**

こんな症状はありませんか	● 煙が出たり、異常なにおいや音がする ● 音が出ないことがある ● 正常に動作しないことがある ● 商品に破損した部分がある ● その他の異常や故障がある

このような症状の時は、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

販売店名	☎ (　　) −	品番	SC-HT08
お客様ご相談窓口	☎ (　　) −	お買い上げ日	年　月　日

松下電器産業株式会社　ネットワーク事業グループ

〒 571-8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号

RQT8564-1S
H0106ZZ1026